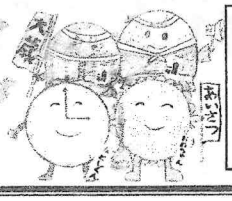
心和得天真

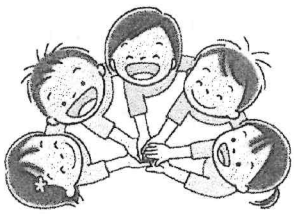
～心和して天真を得る～



山口市立大歳小学校
学 校 だより
令和8年 11 月

「思い」を「カタチ」に！ ～言葉と行動でつなぐ温かい心～

5・6年生にとって大きな行事である修学旅行（6年）やチャレンジ学習（5年）が無事に終了いたしました。保護者の皆様には、事前の準備や日頃の体調管理等で大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。



子どもたちは、普段の学校生活とは異なる環境の中で、「自分たちの力で行動すること（自主）」、そして「声をかけ合い、助け合うこと（協力）」の大切さを、身をもって学ぶことができました。

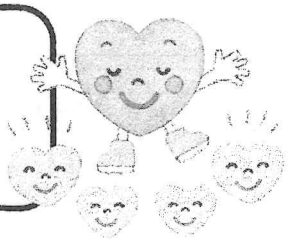
修学旅行中の班行動やホテルの部屋で、友達を気遣ったり優しい声をかけ合ったりする姿をたくさん見かけました。チャレンジ学習でも、友達と励まし合いながら野外炊事やTAPをやり遂げていく姿が何度も見られました。見知らぬ地での助け合い、夜の部屋で友達と語り合った時間、そして力を合わせて乗り越えた体験は、子どもたちにとってかけがえのない財産となったはずです。この行事を通して、子どもたちは一回りも二回りも成長したと感じています。



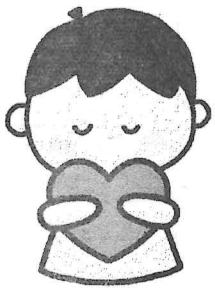
この行事で育まれた「仲間との絆」や「互いを思いやる心」は、これからの学校生活をより豊かで温かいものにするための大切な基盤となるはずです。

さて、十数年前のテレビCMなどで話題になった、素敵な言葉をご存じでしょうか。

「こころ」は誰にも見えないけれど、「こころづかい」は見える。
「思い」は見えないけれど、「思いやり」は誰にでも見える。
その気持ちをカタチに。



これは、詩人・宮澤章二さんの『行為の意味』という詩の一節です。



心の中で「困っているのかな」「大丈夫かな」と心配したり優しさをもったりしていても、黙っているだけでは相手には伝わりません。「大丈夫？」「手伝おうか？」という言葉や、そっと手を差し伸べる行動（カタチ）にして、初めて相手の心を温める「思いやり」になるのです。

修学旅行やチャレンジ学習で子どもたちが見せてくれた「仲間との協力」や「優しさ」は、まさに一人ひとりの温かい思いが「言葉」や「行動」というカタチになって表れた素晴らしい姿でした。

11 月は、本校の「ハートタイム（個別相談）」や人権参観日をはじめ、子どもたちの心に寄り添う取組をさらに深める月です。心の中で友達を気遣う「思い」を、あいさつや優しい一言、差し出す手など、「思いやり」というカタチにして届け合える、温かく安心できる学校・地域を、皆様とともにつくっていきたいと思います。

校長　門岡裕二